

定 例 教 育 委 員 会【議 事 録】

日 時 令和6年10月6日(金)
9時30分～

場 所 岡谷市役所6階 605会議室

署名委員 太田教育長職務代理者 轟教育委員

【 次 第 】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 「岡谷市いじめ防止等のための基本方針」の改定について【資料 No.1】 (教育総務課)
2. 令和6年度全国学力・学習状況調査結果について【資料 No.2】
(学びの創生・連携支援室)

○ 報 告

1. 令和7年度予算編成方針について【資料 No.3】 (全課)
2. 岡谷市教育委員会点検・評価報告書【資料 No.4】 (全課)
3. 令和6年度子ども・若者育成支援強調月間について【資料 No.5】 (生涯学習課)

○ そ の 他

- ・行事等について(各課)
- ・その他

出席委員

教育長 宮坂 享、教育長職務代理者 太田 博久、教育委員 藤森 一俊、教育委員 小平 陽子、
教育委員 林 慎太郎、教育委員 轟 美緒

事務局(説明員)

教育部長 白上 淳、教育担当参事 両角 秀孝、教育総務課主幹指導主事 濱 敦志、
生涯学習課長 白田 研一、スポーツ振興課長 小松 隆広、
教育総務課学校教育主幹 味澤 勝一、教育総務課教育企画主幹 西山 塁、
川岸学園整備室川岸学園整備主幹 新村 尚志、教育総務課主任 大島 俊輔

<会議録>

○開 会

宮坂教育長： それでは、ただいまより令和 6 年 10 月定例教育委員会を始めます。本日の署名委員は太田教育長職務代理者と轟教育委員にお願いいたします。

○教育長報告

宮坂教育長： 初めに私から報告をします。

明日は二十四節季で寒露です。草木に冷たい露が宿り、寒さを感じ始めます。シュウメイギクやフジバカマも綺麗に咲き始めました。嬉しいことに庭にある蘭の花芽が伸びており、冬が楽しみです。

子どもたちの姿から報告します。9月26日と27日を中心に中学校の文化祭がありました。去年は岡谷南部中学校と岡谷北部中学校に行きましたので、今年は岡谷東部中学校と岡谷西部中学校に行きました。

岡谷東部中学校のスローガンは、「青春開華～思いやりの花を咲かせよう～」でした。広島平和体験に参加した中学生の発表が素晴らしい発表でした。心を動かされた「ひと」「もの」「こと」「こころ」を基に伝える姿がとても素敵でした。「原爆の子の像」のモデルとなった佐々木禎子さんや、住友銀行広島支店入口階段の「人影の石」などに焦点を当てて発表していました。

「願うだけでは平和は訪れません」という言葉を発表する中学生の姿を見て、岡谷市の平和体験事業が良い形で全校に広がっていると感じました。小中連携で、小学生にも平和体験について発表をする機会もあるようです。とてもありがたいと思います。他にも総合的な学習の時間や、ダンスの発表もあり大変賑わっていました。

岡谷西部中学校のスローガンは、「楽しさと挑戦に限界はない」でした。岡谷西部中学校には弁論大会風の発表をするという良い伝統があり、「クリスマスの休戦」「現代社会とルッキズム」「広島平和体験」の発表がありました。生徒が個々に感想を書き、その感想を基に意見を発表します。対話的で深い学びの実践がされている様子が印象的でした。玄関前ではPTAや地域の皆さんが物品販売をしており、地域が支える学校づくりを感じました。

職員の様子から報告します。9月13日に上智大学の奈須先生を中心に、5人の講師陣のパネルディスカッションがありました。学んだことを使ってみたくなるような授業づくりや、自立した学びのためには、自己課題を自分のスタイルで学んでいくことが重要であるという内容で、とても良い研修になりました。

宮坂教育長：次に生涯学習課から、9月29日に岡谷図書館にて行われた「リサイクル本の配布事業」につきましてご報告します。

図書館で保存年限を過ぎた書籍や雑誌の除籍本等を、岡谷読書サークル協議会と協力し、希望する市民と学童クラブ等に配布いたしました。例年人気があり、今年も入場前から50人ほどの列ができました。1人10冊までを上限に配布しますが、当日は168人が来場し2,428冊をお持ち帰りになりました。読みたい本を見つけていただき、新たな本との出会いもあったのではないのでしょうか。

なお、今年は、市内3高校を対象にボランティアを募集したところ、2名の高校生が参加してくれました。

最後にスポーツ振興課関係を報告させていただきます。

第78回国民スポーツ大会「SAGA2024」が、10月5日に開幕しました。今大会から「国民体育大会」の名称が「国民スポーツ大会」に変わり、最初の大会となります。佐賀県では、大会スローガンを「新しい大会へ。すべての人に、スポーツの力を。」として、新たな歴史を刻むスタートを切りました。

佐賀への切符を手にした岡谷市関係の出場者は、陸上、卓球、柔道競技など8競技に選手16名、監督・コーチ6名の計22名となっており、9月25日に壮行会を開催し、出場のお祝いとともに熱いエールを送りました。

大会では、これまで積み重ねてきた練習の成果を十分に発揮され、素晴らしい成果をあげられるよう、選手の皆さんの活躍を心から期待しているところであります。

私からは以上であります。

○議 題

1 岡谷市いじめ防止等のための基本方針」の改定について

<インターネットを介したいじめ等のトラブルの発生リスクが高まっていることを受け、市基本方針にネット上のいじめに関する対応の項目を追加する内容について、資料 No.1 に基づき事務局より説明>

轟教育委員：今回追加した以外の質問になってしまいますがよろしく願います。いじめ問題調査員はどのような方々で構成されるのでしょうか。

また、アンケートに係る部分で「アセス、Q-U調査等の活用」という言葉があります。アセスは児童・生徒の学校生活への適応感を6つの因子から総合的に測定できるアンケートとありますが、どなたがどのタイミングで実施するのか、詳細について教えてください。

- 事務局（両角）：** 極めて重大な事案が発生した際に、いじめ問題対策調査委員会が第三者として調査をします。弁護士や医師など、専門的な知識がある方々で構成されており、重大事案がない年でも11月頃に会議を開き有事に備えています。
- 事務局（長谷川）：** アセス、Q-U調査の実施主体につきましては、学校の先生が生徒に実施するアンケートとなっております。
- 轟教育委員：** 予定表を見るとQ-U調査は5月と11月に実施されています。アセスも定期的に実施されているのでしょうか。
- 事務局（濱）：** 小学校1年生と2年生がQ-U調査で、それ以外の学年にはアセス調査を実施しています。実施のタイミングは両調査とも同じ時期に実施しています。アセスの方が様々な状況を掴みやすい面がありますが、小学校1、2年生には少し難しいため、二種類のアンケートを使っています。
- 宮坂教育長：** 教員のみだけでは見えにくい人間関係などをアンケートで調査し、客観的なデータを集め、学級経営に役立てています。
- 林教育委員：** 年間スケジュールを見るとアセス、Q-U調査以外にも悩み事アンケートを実施され、様々なヒアリングの場があると分かります。今回追加されたネット上のいじめへの対応に関する表記はこれらの調査に関わってくるのでしょうか。
- 事務局（両角）：** アセス、Q-U調査は児童の学校生活状況が確認できる調査です。それとは別に、学期末に実施している生活上の悩み事の調査も大切にしています。今回の追記によって新しいことを始めるのではなく、今まで学校で実施していた内容を基本方針に位置付けさせていただきました。
- 林教育委員：** ネットのいじめは発覚が難しいです。SNSのグループに入っていない子どもが仲間外れになってしまうこともあり、とても見つけにくいと思います。他の地域の事案や対策方法など、情報収集が大切だと感じました。
- 藤森教育委員：** ネット上のいじめへの対応について追記された文言に、「インターネットの適正利用について、児童生徒が自ら考え、自ら行動するための取り組みを推進します」とあります。学校や先生によって変わってくるところもあると思いますが、具体的な取り組みについて教えてください。
- 事務局（両角）：** いじめ防止対策と、情報機器の正しい使用方法という二つの取り組みがあります。いじめ防止対策の自ら考える例としてはいじめ根絶子ども会議につながりますが、いじめやいじりの線引きは自分たちで考えるという取り組みが具体的な例です。また情報活用能力を高める中で、情報モラル教育も必要です。学校だけでなく家庭でも一緒に取り組んでいただく必要があります。
- 事務局（両角）：** あります。例えばこのような使い方は犯罪、いじめであるといった認識が

事務局（両角）： できるように、警察や通信業者等の講演会などを繰り返し行い、理解を深めていただく必要があります。情報機器は鉛筆等の文房具と同じように日常的に使う道具になりますので正しく向き合い、賢く使う必要があります。

藤森教育委員： やはりネット上でのいじめは分かりにくく発見も難しいです。ネットに特化した取り組みについて表記があっても良いと思いました。

小平教育委員： 世の中の変化に伴い、情報モラル教育の重要度も上がっています。自ら考え自ら行動するためには、大人もモラルに関する感度を高める必要があると思います。自分が子どもの時代よりもSNS等で受け取る情報量が多く、多感な時期の子どもは悩んでしまうこともあると思います。例えばいじめだけではなく、他者と比較をしてしまい、自己肯定感が下がってしまうこともあるかもしれません。それらのケアに関する表記も検討してほしいです。今後も様子を見ながら、必要に応じて基本方針に追記をしていただきたいと思います。

太田教育長職務代理者： 毎年いじめに関する報告を受けておりますが、ネット上に限らずいじめに対する先生方の感度が上がっていると感じています。報告件数も増えていますが、早期の対応を心掛けている先生方の対応によるものなので報告件数の増加が必ずしも悪いものではないと思っています。その中でネット上のいじめは、皆さんも言っているように発見が難しい面があると思います。現実世界での関係性と、ネット上での関係性の二つを持っている社会になっているように感じます。ネット上でのいじめも重大事態につながる可能性は大いにありますので、この機会に全員がネット上のいじめ重大性を再確認していただきたいと思います。

児童生徒が自ら考え、自ら行動するための取り組みに、いじめ根絶子ども会議があると思いますが、例えばネット上でのいじめについて取り上げる年があっても良いと思います。また児童生徒へのアンケートでも意識的にネット上での困りごとがないか、質問事項も変更するなど、発見が難しいネット上でのいじめを早期に発見するための取り組みを進めていただきたいと思います。

宮坂教育長： ありがとうございます。それでは「岡谷市いじめ防止等のための基本方針」の改定につきまして、岡谷市教育委員会として承認してよろしいでしょうか。

《承認》

ありがとうございます。ネット上でのいじめにつきましては、スマートフォン等により、誰もが気軽に書き込みができてしまうため、児童生徒自

宮坂教育長： 身が被害者にも加害者にもなりやすく、早期発見の難しさが問題として挙げられます。

今後におきましても、情報モラル教育の推進により、インターネットの適正利用について理解を深めるための取り組みを大事にしていきたいと思います。

2 令和6年度全国学力・学習状況調査結果について

＜令和6年4月18日に実施された全国学力・学習状況調査の分析結果について学びの創生・連携支援室より資料 No.2 に基づき説明＞

太田教育長職務代理者： 調査対象の子どもが毎年変わりますので、去年と比べてどうかということでもないと思います。重要なのはこの調査の結果を受けて、どのように今後の子どもたちの学習に生かすかだと思います。

探究的な学びに関連して、問題の傾向が少しずつ変わっていると聞いていますが、今年度の問題にも変化は見られるのでしょうか。

事務局（濱）： 実生活と関連させた問題が見られました。小学校算数の問題では家から目的地まで自転車で移動する問題となっており、中学校数学はストーブの灯油使用量に関する問題です。

国語の問題については、文章から読み取って分かったことを回答するだけでなく、例えば自分でコミュニケーションを取る際に考えていることを問う内容や、より実践的な力を問われる問題が増えています。

太田教育長職務代理者： 全国学力・学習状況調査が始まった当初は、全国平均や昨年度と比べてどうか、と話題になっていましたが、内容的にはより実践的なものに変わっているということが分かりました。

轟教育委員： お配りいただいた資料の「おかやの子のすがた」は各家庭に配布されているのでしょうか。

事務局（濱）： 「おかやの子のすがた」については各家庭に配布されていますし、各学校の分析内容についても配布されています。

轟教育委員： 全国平均との比較に意味はないかもしれませんが、とは言え平均点より高い成績であれば子どもたちのモチベーションにつながることもあると思います。課題として、授業以外の場面でICT機器を勉強に活用している児童生徒が少ないという結果も出ているので、家庭でも上手に使ってほしいと思いました。

小平教育委員： とても上手にまとめられた資料だと思いました。本を読みましよう、と伝えるだけでなく、様々なジャンルの本や新聞を読むことで語彙力や表現

小平教育委員： 力を磨くことができる内容が含まれていました。また、自己肯定感や自己有用感を育てることが大切であると表記されているので、親御さんにとって、とても参考になる内容だと思います。

英語についてですが、日常生活の中で使う機会もなかなか無いとは思いますが、この調査で課題として捉えていただき、ICTも活用しながら改善するアイデアが出てくれば良いと感じました。

また全体的に言えることですが、点数で表れるところ以外について、例えば生活の中で幸せな気持ちになることがある生徒や、仲間と上手に関係を作れていると感じている生徒がいることが何よりだと思いました。学校訪問の時に感じましたが、先生方がこまめに児童生徒に気を配っていたので、そういった取り組みの成果だと思いました。

林教育委員： 本調査の目的や意味は理解していますが、この結果は生徒にフィードバックする場はあるのでしょうか。

事務局（濱）： 来年は今年と違う生徒が調査を受けるので、今年の結果をフィードバックすることはありません。例えば、「今年の成績が良かったから来年の生徒も頑張りなさい」とは言いません。ただし本調査で分かった課題等は、先生方が授業の中で役立てています。特に今年は成績が良かった学校が多かったので、これをチャンスにさせていただき、普段の授業の何が良かったかを分析してつなげることが大切だと感じています。

林教育委員： 中学3年生くらいになれば、この調査の目的等も理解ができると思います。自分の今後の学習のヒントになる生徒も多いと思うので、機会があれば調査結果を生徒に伝える場があっても良いのかと思いました。

太田教育長職務代理者： 授業以外の場面でICT機器を使っている生徒が少ないとのお話がありました。私の子どもは大きくなってしまい今の子どもの様子が分からないところもありますが、ICTの活用について課題と感じている部分についてもう少し詳細に教えていただけますか。

事務局（濱）： 今回の調査では、肯定的な意見を書いてくれる児童生徒が多く、課題を見つけるのが大変でした。あえて課題として取り上げるならこれ、と言えるものを記載しました。

ICT機器の活用につきましては、授業で利用する機会も増えてきていますが、休み時間や家で分からなかったところを調べてみる、といった使い方はしていないようです。自分の学習のために端末を使う意識はあまりないということを今回の調査の回答を見て感じました。

宮坂教育長： 本日いただいた意見につきましては、学びの創生・連携支援室や学力向上推進委員会の皆さんと共有し、活かしていきたいと思います。

宮坂教育長： 続いて報告事項に進みます。

○報 告

1 令和7年度予算編成方針について

<令和6年9月6日に通知された、令和7年度予算編成方針について資料No.3に基づき事務局より説明>

2 岡谷市教育委員会点検・評価報告書

<地方行政の組織及び運営に関する法律に基づき調製した点検・評価報告書（資料No.4）を、事務局より説明>

3 令和6年度子ども・若者育成支援強調月間について

<例年11月と定められている「子ども・若者育成支援強調月間」について、資料No.5に基づき事務局より説明>

○その他

・行事等について（各課）

<各課より行事予定について説明>

宮坂教育長： ありがとうございます。
それでは事務局より次回開催予定についてお願いいたします。

事務局（両角）： 次回の定例教育委員会は
11月8日（金）9時30分から605会議室を予定しています。
よろしくお願いいたします。

宮坂教育長： ありがとうございました。
以上で定例教育委員会を終了いたします。

11時15分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第20条により署名する。

令和 6 年 11 月 8 日

教 育 長

宮坂 享

署 名 委 員

太田 博久

署 名 委 員

車 美緒

調 製 職 員

白 上 淳